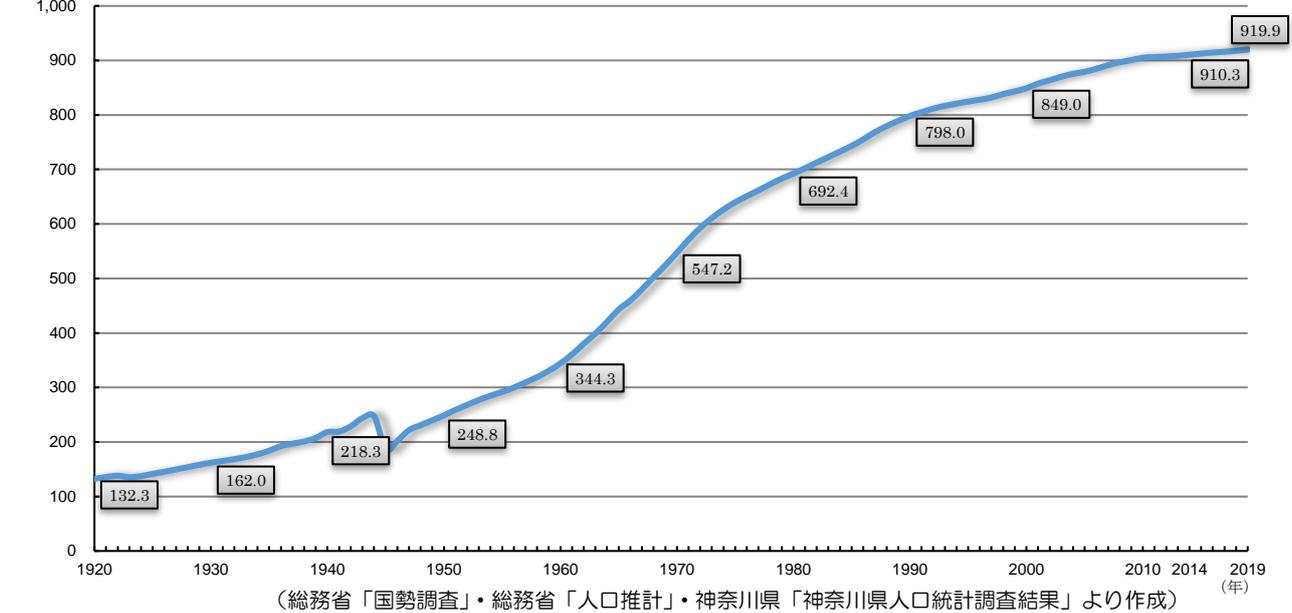


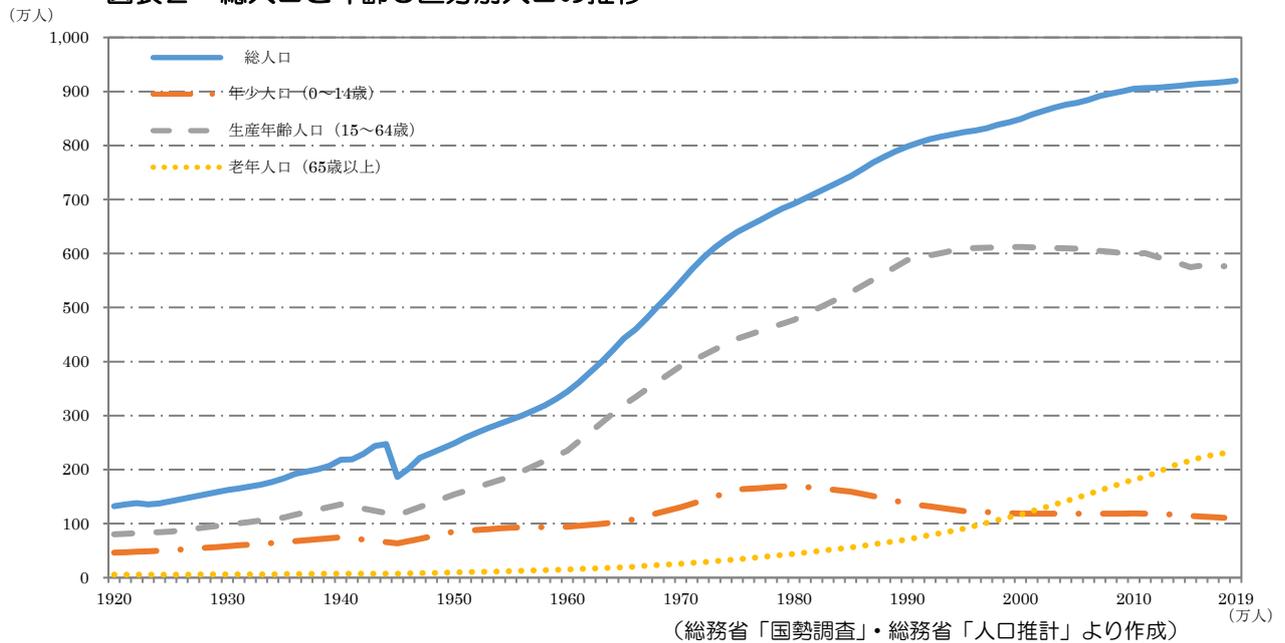
直近の人口動向分析について

図表1 総人口の推移



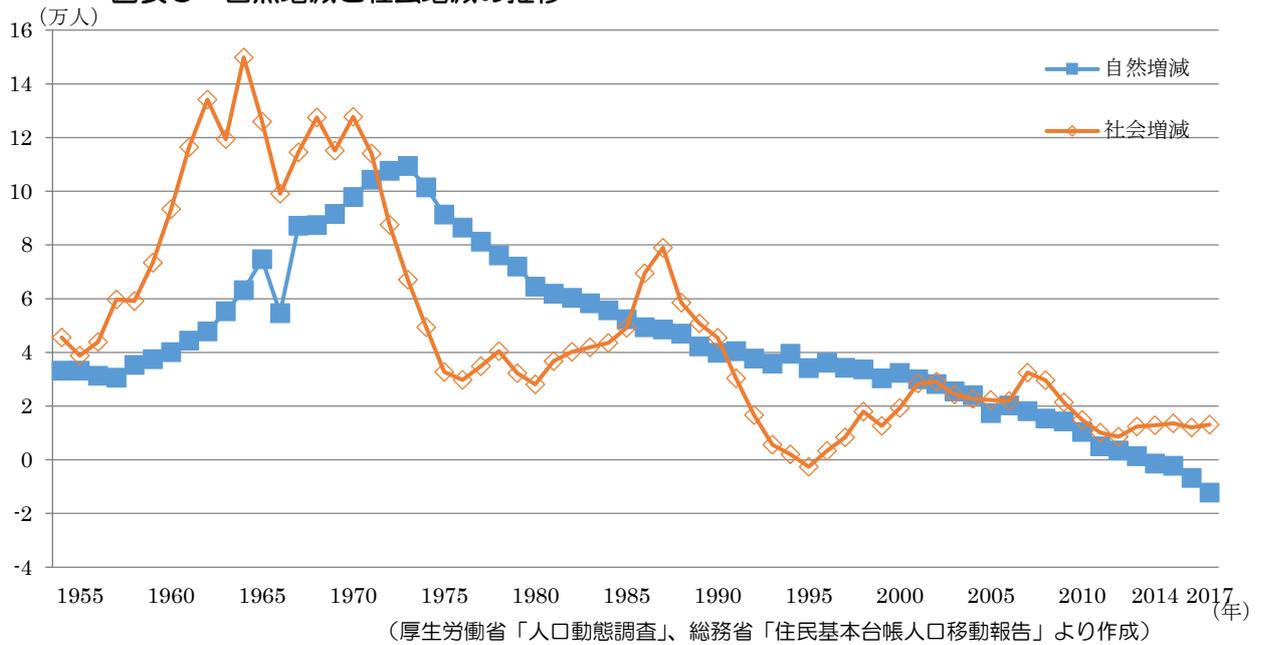
➤ 戦後、総人口は増加し続けおり、2019年6月1日現在、919.9万人となっています。

図表2 総人口と年齢3区分別人口の推移



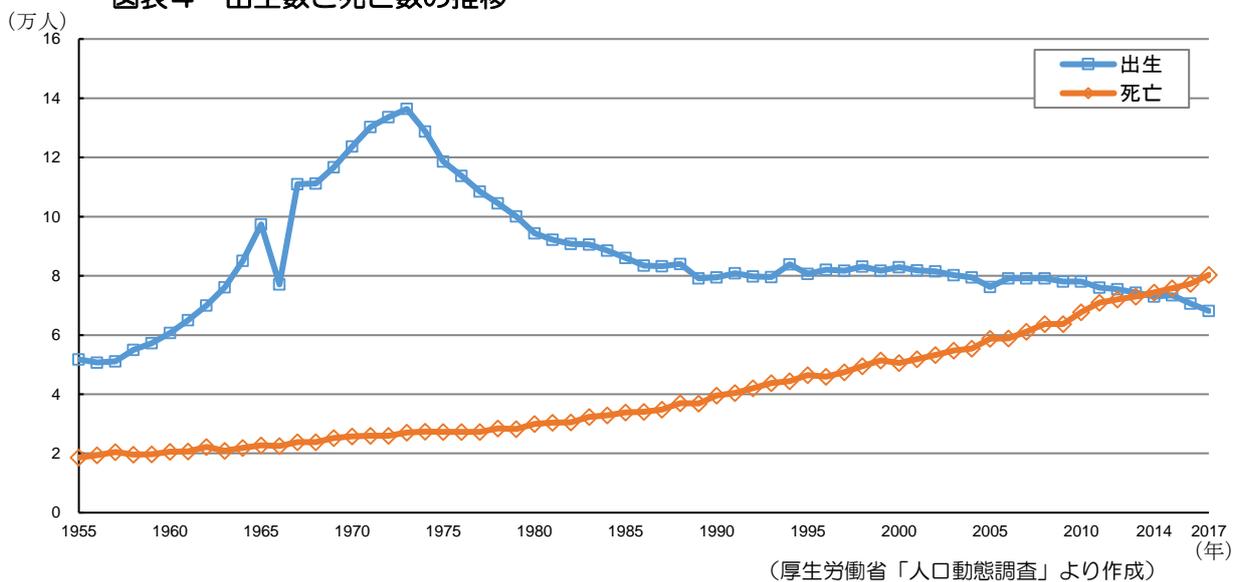
➤ 生産年齢人口と年少人口は、既に減少に転じ、老年人口は、増え続けています。

図表3 自然増減と社会増減の推移



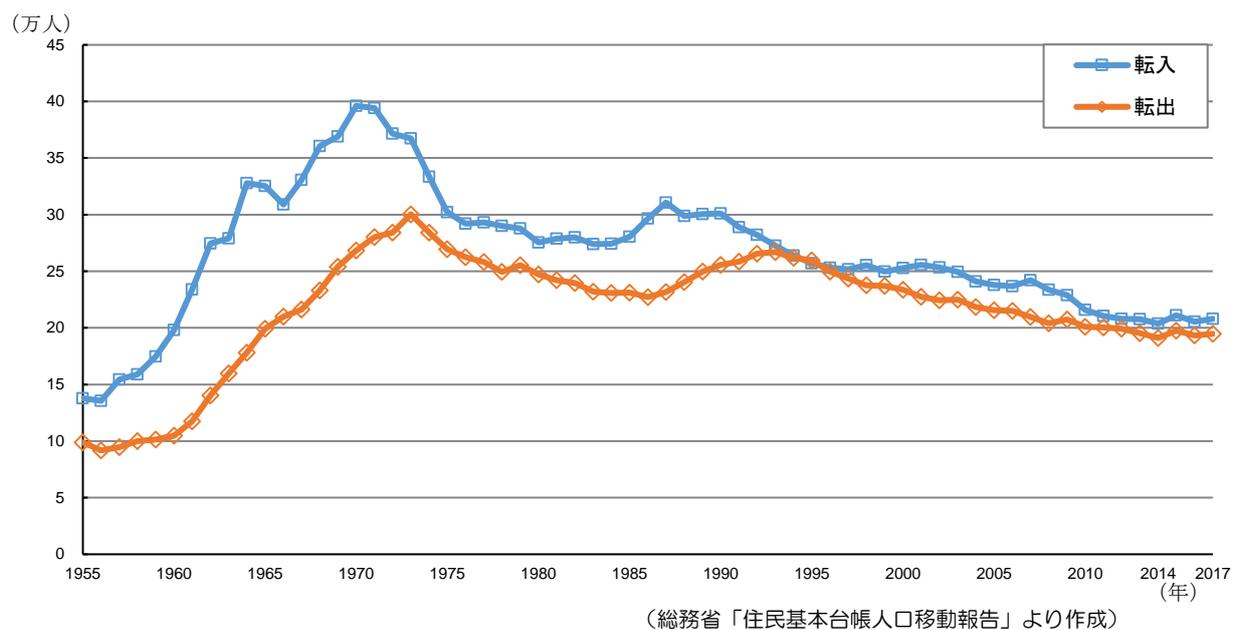
- 「自然増」は近年減少傾向にあり、2014年以降は死亡数が出生数を上回る「自然減」の傾向が続いています。
- 「社会増」は、1970年頃、年間10万人を超えていましたが、近年は、年間1～2万人程度で推移しています。

図表4 出生数と死亡数の推移



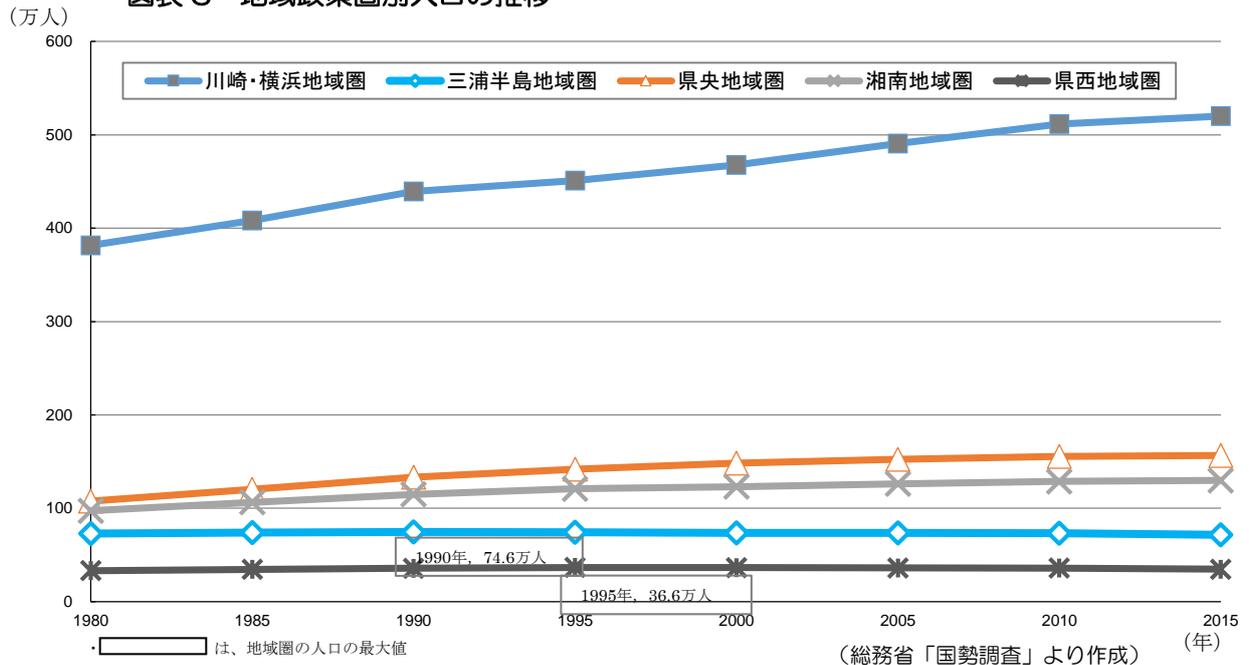
- 出生数は減少傾向にある一方で、死亡数は増加の一途をたどっています。

図表5 転入者数と転出者数の推移

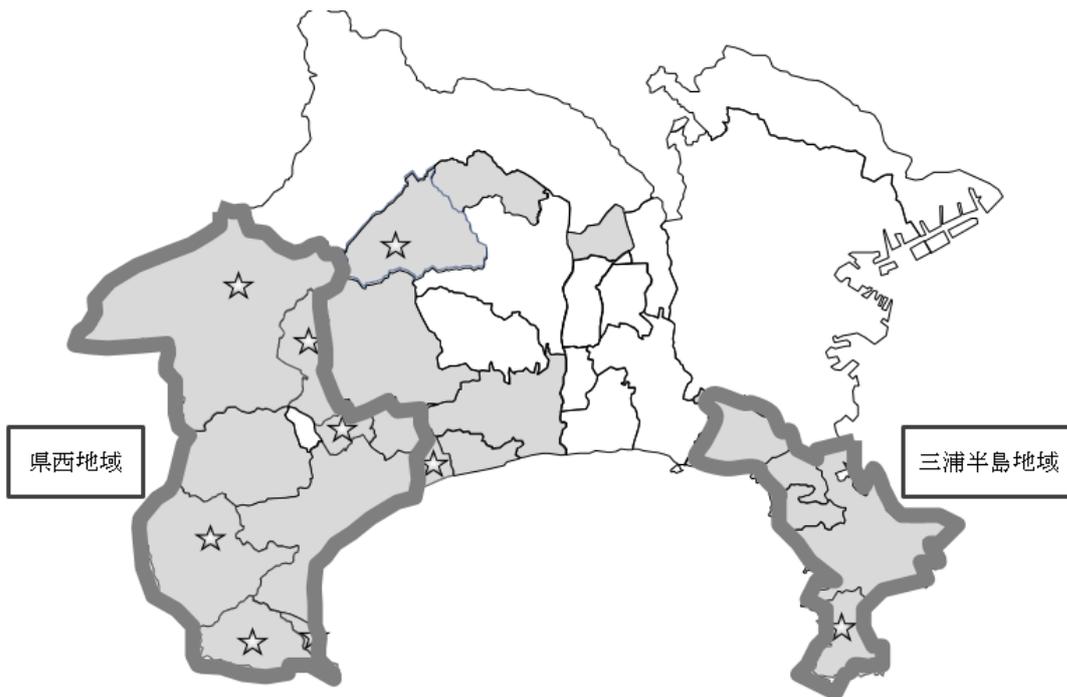


- 高度成長期には40万人近かった転入者数は、近年20万人程度まで減少し、転出者数との差が小さくなっています。

図表6 地域政策圏別人口の推移



図表7 人口減少地域と「消滅可能性都市」

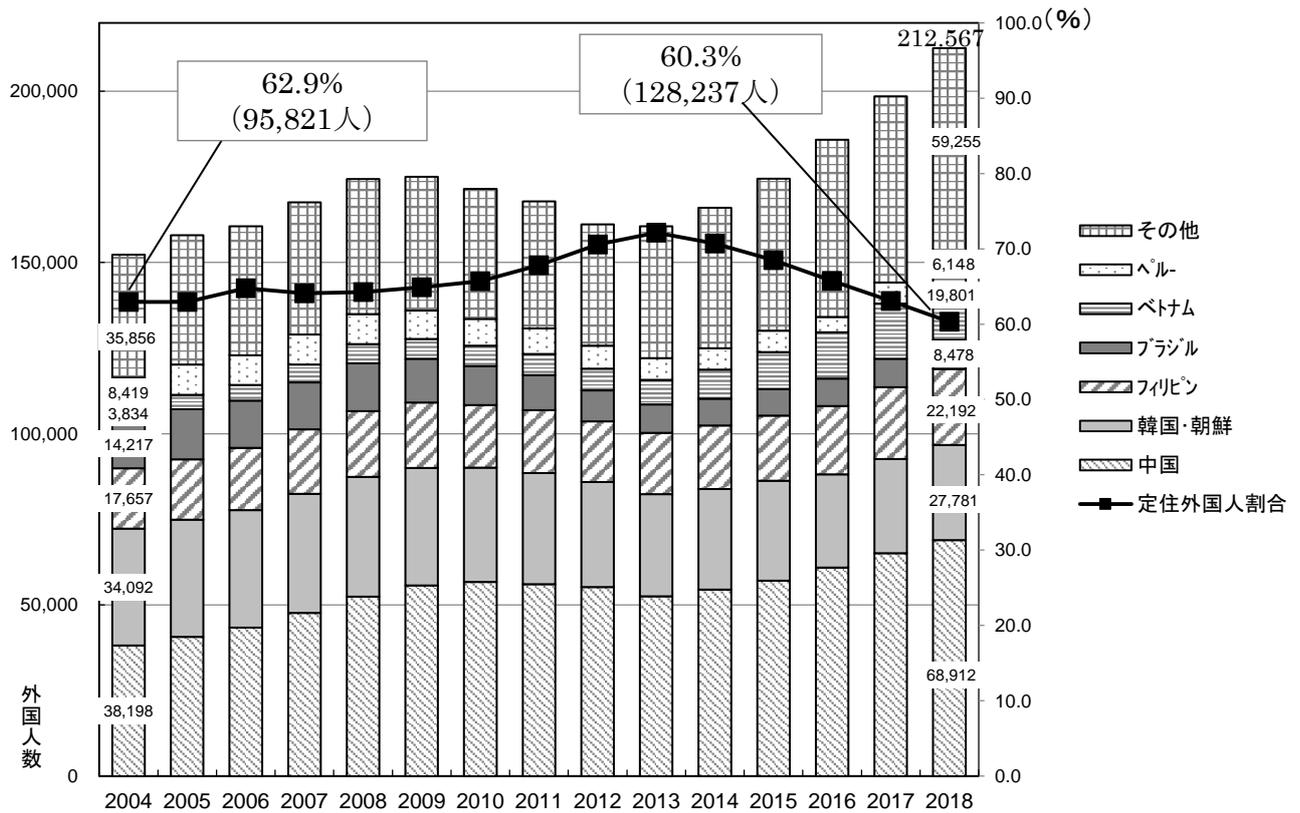


<日本創成会議・人口減少問題検討分科会の推計による「消滅可能性都市」1市7町1村>
三浦市、二宮町、大井町、松田町、山北町、箱根町、真鶴町、湯河原町、清川村

<国勢調査 2010年と2015年を比較して人口が減少している市町村 9市11町1村>
横須賀市、平塚市、鎌倉市、小田原市、逗子市、三浦市、秦野市、座間市、南足柄市、葉山町、大磯町、二宮町、中井町、大井町、松田町、山北町、箱根町、真鶴町、湯河原町、愛川町、清川村

➤ 都市部はまだ人口増加が見込まれていますが、三浦半島地域や県西地域は、1990年代からの人口減少が始まっています。

図表8 外国人数の推移

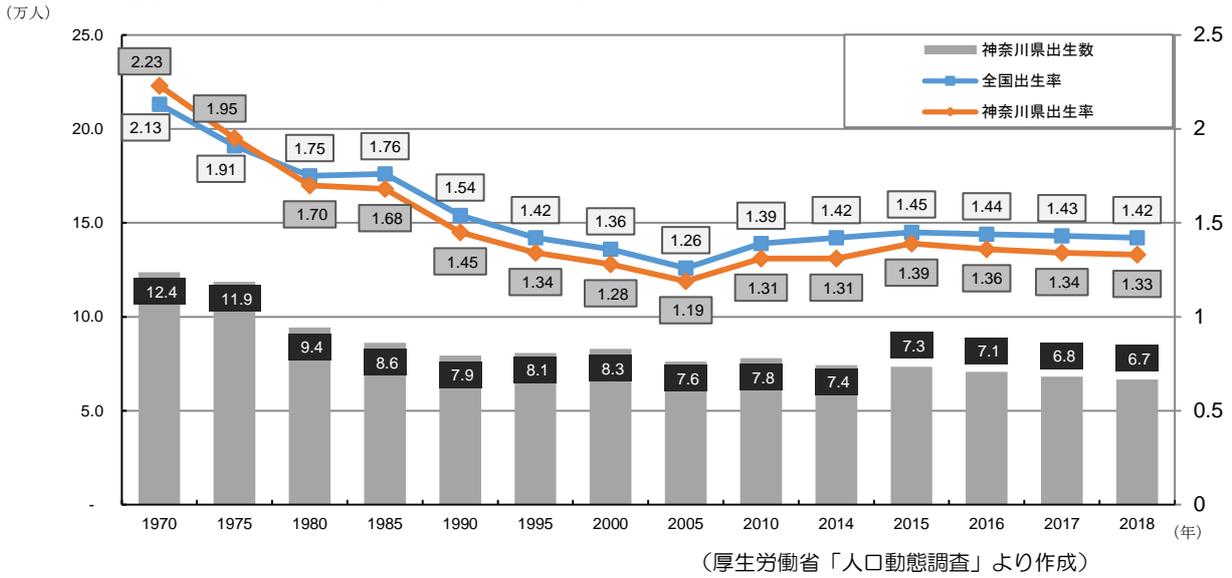


※ 外国人数は2011年度までは外国人登録法に基づく外国人登録者数、2012年度以降は住民基本台帳上の外国人数
 ※ 2015年度までは「韓国・朝鮮」として一括集計。2016年度から分離集計（2016年度「朝鮮」1,755万人）
 ※ 定住外国人：永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等、定住者、特別永住者の合計

（外国人数は県民局調査、定住外国人数は法務省「在留外国人統計」より作成）

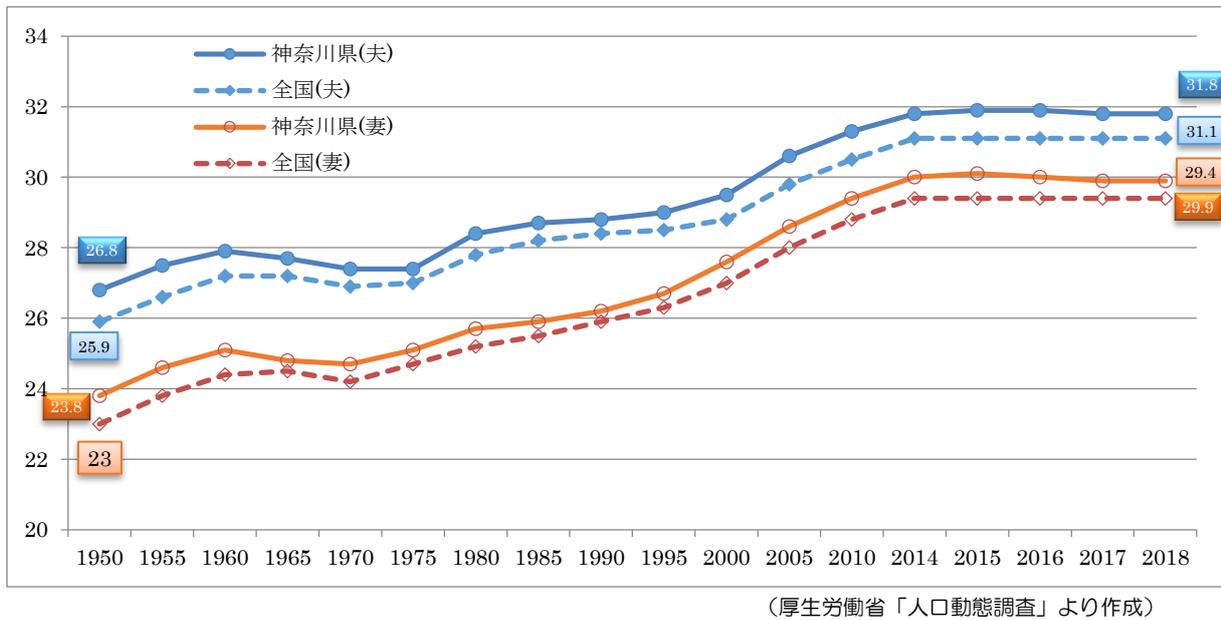
➤ 外国人数は、2009年度の175,014人をピークに2013年まで減少傾向にありましたが、2014年に増加に転じ、2018年には初めて20万人を超えました。

図表9 出生数・合計特殊出生率の推移



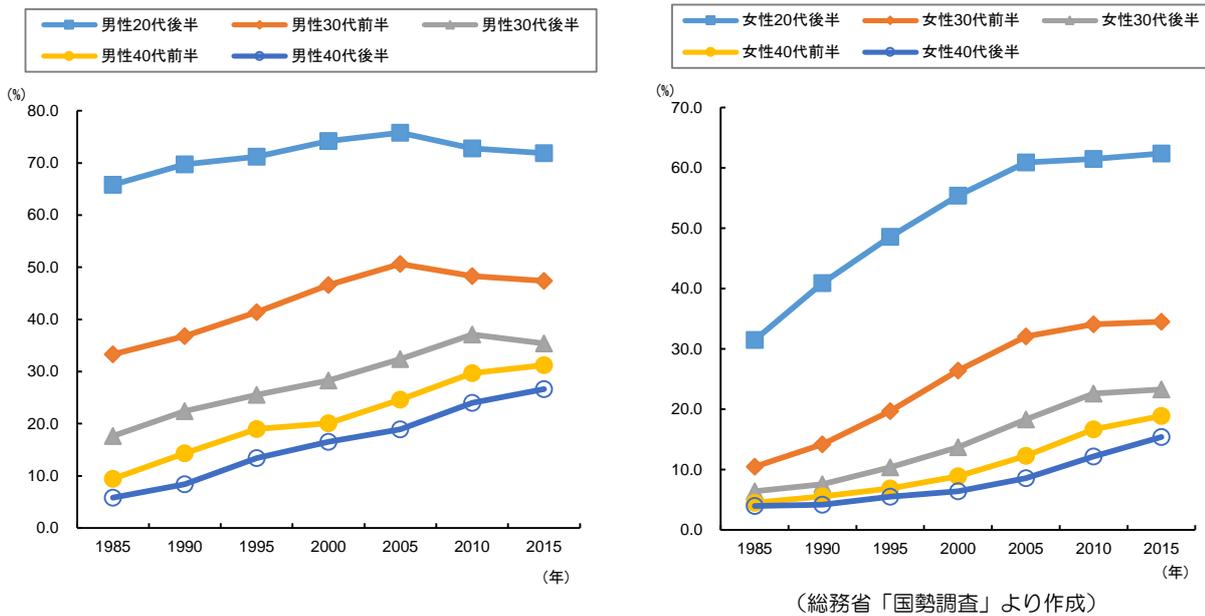
➤ 1970年に全国を上回る2.23であった合計特殊出生率は、1980年には逆転し、以降、全国を0.1ポイント程度下回る傾向が続いています。

図表10 平均初婚年齢の推移



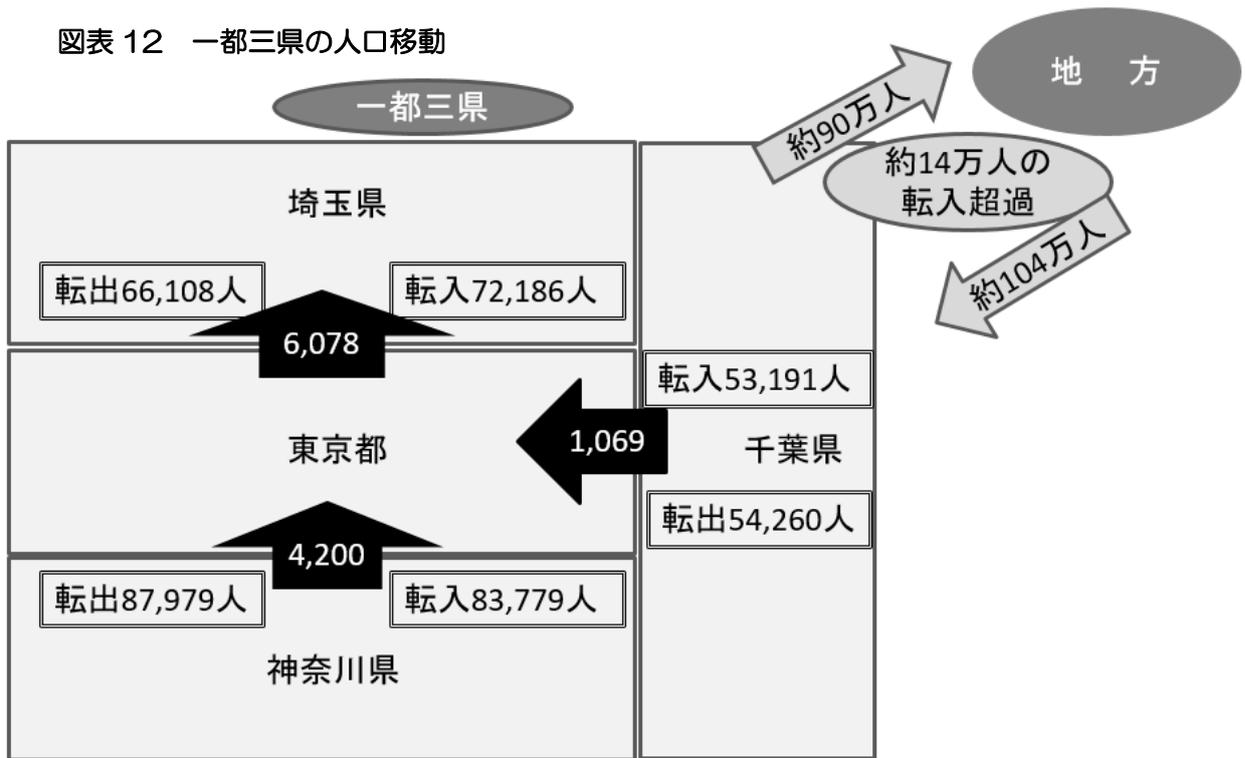
➤ 平均初婚年齢は上昇傾向にあり、「晩婚化」が進んでいます。

図表 11 男女別・年代別未婚率の推移



➤ 40代の未婚率は上昇しています。

図表 12 一都三県の人口移動



➤ 一都三県は、全国から大きく転入超過となっていますが、東京都に対しては、神奈川県も転出超過となっています。